

和光市立地適正化計画の検討状況

1. 和光市立地適正化計画の構成

「和光市立地適正化計画 目次構成案」

令和4年度検討	第1章 立地適正化計画の概要	前回資料
	策定の背景／計画の位置付け／計画区域／計画期間	
	第2章 市の現況と都市構造上の課題	前回資料
	現況／課題	
	第3章 立地適正化計画で目指す将来の姿	
	立地適正化計画におけるまちづくりの方針 ／都市の骨格構造	
令和5年度検討	第4章 誘導施設・都市機能誘導区域	現在検討中
	誘導施設／都市機能誘導区域	
	第5章 居住誘導区域	現在検討中
	居住誘導区域	
	第6章 防災指針	
	災害ハザード情報の整理 ／災害リスクの高い地域等の抽出 ／地域ごとの防災上の課題 ／地区ごとの課題を踏まえた取組方針 ／具体的な取組・スケジュール	
	第7章 誘導施策	
	居住誘導に係る施策／都市機能誘導に係る施策 ／公共交通に係る施策	
	第8章 計画の推進に向けて	
	目標の設定／評価・見直しの考え方／届出制度	
	参考資料	
	策定体制／策定経過／用語解説	

和光市の現況・課題

人口 和光市の総人口は緩やかに減少する見込みですが、高齢化は進行する見込みです。
 →このままだと、地域におけるまちづくりの担い手の減少や地域コミュニティの希薄化が懸念されます。

都市機能施設 市街化区域内は、各都市機能施設の徒歩利用圏が概ねカバーしており、特に駅や市役所周辺、埼玉病院周辺、新倉小学校周辺に多くの施設が集積しています。
 →このまま人口減少や少子高齢化が進むと、人口構成の変化や時代のニーズに合わなくなることも懸念されます。

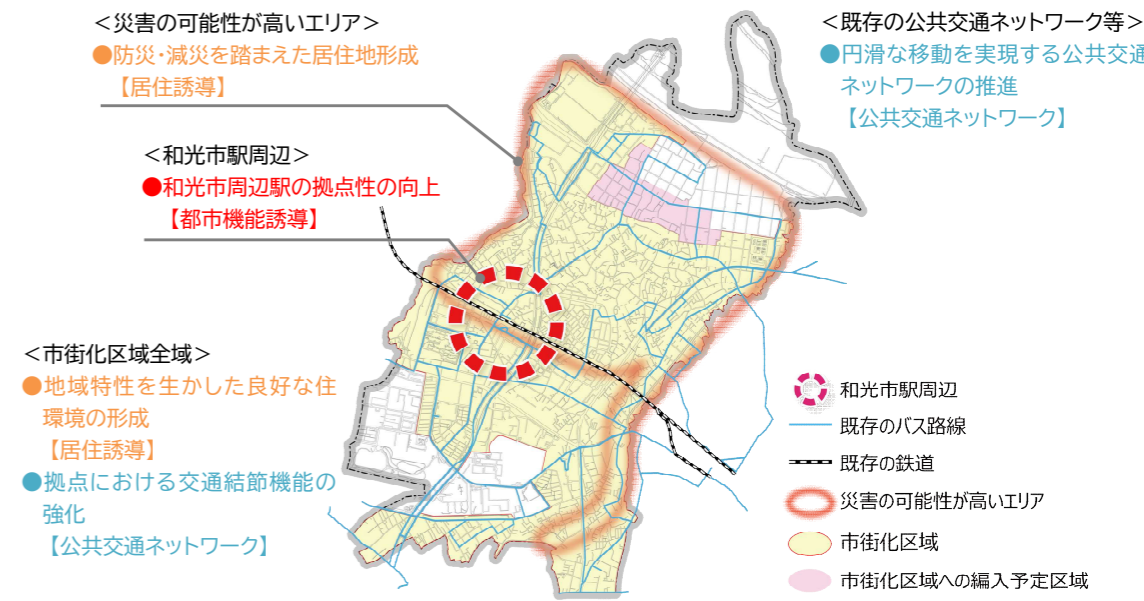
公共交通 鉄道と高頻度な民間の路線バスにより、地域公共交通ネットワークが形成されています。バス交通の徒歩利用圏は住宅地の大半をカバーしています。
 →日常的な公共交通として、将来にわたり維持していくことが必要です。

災害 市北部及び東部は、浸水リスク及び土砂災害の可能性のあるエリアが存在しています。
 →このままだと、人がたくさん住む地域に災害の危険性が高い場所も見られ、人的・物的被害が懸念されます。また、狭い道路や起伏のある地形など地域特性によって、迅速な避難が困難になることが懸念されます。



そうならないために！ 将来にわたり、まちをより便利で暮らしやすくするため、立地適正化計画を策定します

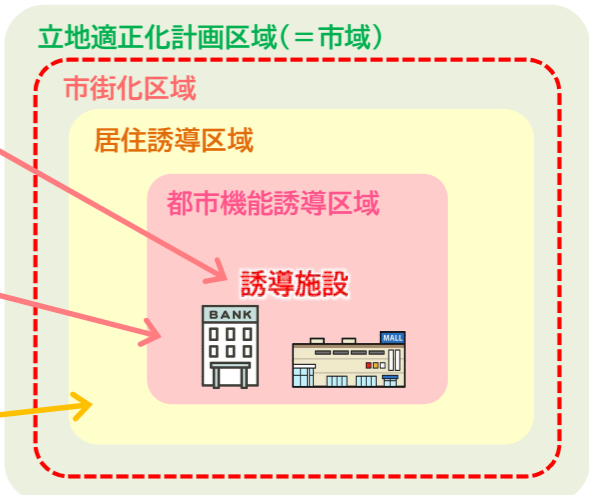
- 都市機能誘導** まちづくりの基本方針(ターゲット)1
市全体の活力をけん引する拠点における都市機能の集積と魅力的な空間の形成
- 居住誘導** まちづくりの基本方針(ターゲット)2
多世代が暮らし続けられる安全・快適な住環境の形成
- 公共交通ネットワーク** まちづくりの基本方針(ターゲット)3
拠点間及び居住地をつなぐ利便性の高い公共交通ネットワークの維持・充実



誘導施設
 誘導施設は、都市機能誘導区域に立地を誘導する施設であり、まちの魅力づくりや居住者の利便性などの観点から検討し、現在不足している機能（施設）や、今後とも維持が求められる機能（施設）等を対象に設定します。

都市機能誘導区域
 都市機能誘導区域は、誘導施設を誘導する区域であり、用途地域や施設の立地状況等を勘案して設定します。

居住誘導区域
 居住誘導区域は、居住を誘導すべき区域であり、市街化区域内のうち、災害リスクのある区域や、工業系の土地利用がなされている場所などを除いて設定します。



※目次構成は現時点案であり、今後変更の可能性がございます